

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月
高崎市（群馬県）

全体総括

○計画期間：平成20年11月～平成26年3月（5年5ヶ月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市の中心市街地は、平成20年11月に国から中心市街地活性化基本計画（以下、「第1期基本計画」という。）の認定を受け、「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”を基本理念に3つの目標を設定し、中心市街地の活性化に取り組んできた。

特に、高崎駅周辺では、ヤマダ電機（LABI1 高崎）やペDESTリアンデッキ、駅中央コンコースの整備により、東西口が一体的となり、駅一円に新たな人の流れと活気をもたらした。

また、新たに中央図書館が整備されたことで集客の拠点が生み出され、中心市街地における新たな核の強化が図られている。中央図書館は、平成25年度に年間約41.8万人の利用があり、中心市街地に移転する前より増加していることから、中心市街地に人を呼び込む効果は大きなものがあつた。

さらに、高崎商都博覧会や高崎バル、まちなかオープンカフェ（高カフェ）やまちなかコミュニティサイクル（高チャリ）など、賑わいとまちなかの回遊性向上を目的とした事業が好評であったことから、高カフェ、高チャリと連携したイベントの開催も始まるなど、まちの一体感の醸成も進んでいる。

しかし、長引いた景気の低迷から、スズラン新館増床事業や計画変更となった高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業など未実施となった事業もあつたことから、来街者の伸び悩みなど、回遊性の向上が継続した課題となっている。

一方、高崎駅東口では、新たな音楽ホールとなる高崎文化芸術センターや群馬県によるコンベンション施設が旧高崎競馬場跡地に整備されることとなっている。さらに、高崎駅の徒歩圏内に世界、全国大会の開催が可能な新体育館の建設も始まることから、北陸新幹線の金沢延伸を間近に控え、本市の中心市街地を取り巻く環境はこの数年で大きく変化しようとしている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第1期基本計画では、活性化事業として73事業を位置付け、このうち実施中を含め約9割の67事業が進捗している。

土地区画整理事業を行った箇所については密集市街地が解消され、マンション建設も進んだことから中心市街地の人口は増加傾向となっているが、計画期間中に予定していたスズラン百貨店の新館増床計画などが未実施であった影響もあり、高崎駅と結ぶ商業軸の回遊行動は回復していない。景気の低迷が主な理由のひとつであるものの、中心市街地の活性化に向け今後も関係者との間で継続した意見調整を行う必要がある。

また、高崎駅東口に開店したヤマダ電機（LABI1 高崎）により、小売りに対する影響は大きなものがあつたが、個店の回復まで至っていないことから個々の事業による活性化効果はあるものの、区域への広がり（面的）をもった効果が波及しているとは言えず、中心市街地全体の活性化は達成していない。さらに、中央図書館の移転については順調に事業が完了し、利用者の数は伸びを見せているものの、各種効果への波及が得られなかったことから目的以外の行動をあまりしない傾向が見受けられた。

結果として、第1期基本計画に掲げた3つの評価指標は達成することができなかったが、中心市街地での様々な試みが進展していることもあり、若干の活性化が図られたことは、基本計画に基づいた事業を官民が連携して行ったことの成果であると考えられる。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（高崎市としての見解）

本市の第1期基本計画では、商業・交通の「イーストコアゾーン（高崎駅周辺）」と行政・文化・医療の「ウェストコアゾーン（市役所周辺）」の2核と、これを結ぶ商業、文化の2軸を中心に各事業の効果を波及させる都市構造とした。

高崎駅周辺では、計画期間中に完了した東口のヤマダ電機（LABI1 高崎）やペDESTリアンデッキの整備を契機に駅東西の分断要素が解消され、イーストコアゾーンは計画どおり活性化が図られている。

しかし、中心市街地内にある個店の回復までは至っていないことから、目標を達成するための新規事業として、魅力ある店舗づくりの支援策であるまちなか商店リニューアル事業を実施し、徐々にではあるものの店舗の改装などによる様々な効果が表れつつある。

また、中心市街地に訪れた人が回遊し、長く滞在させることを目的とした市内循環バスぐるりん「都心循環線」の運行により、乗車人数は年々増加傾向を示したが、目的地以外の回遊行動に結びつかなかった。

都市基盤整備の進捗により、中心市街地の移動手段や歩行者空間は利用しやすいものとなったが、安心して楽しく回遊できる魅力的な空間を創出することが今後の課題であるとともに活性化の要件となっている。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

高崎市中心市街地活性化協議会（法定協議会）は平成19年12月に設立され、関係機関等と協議・調整しながら中心市街地活性化の推進を行った結果、第1期基本計画に位置付けられた事業は概ね順調に実施されたと考える。

しかし、スズラン新館増床事業や飛龍の松周辺整備事業など未実施事業があったことから、評価の指標とした小売業年間商品販売額、歩行者・自転車通行量、文化施設の利用者数の合計値ともに目標を達成することができなかった。

これらを踏まえて、第1期基本計画の最終年度に官民が連携したまちなかオープンカフェ（高カフェ）やまちなかコミュニティサイクル（高チャリ）を実施。特に高チャリは登録等の煩わしい作業が不要で使用料金を無料にするなど、利用者の利便性を重視した先駆的な取り組みとなっていて、利用率も高い数値を示している。

いずれにせよ、第1期基本計画では、活性化効果の発現が十分でなかったことを踏まえ、第2期基本計画で掲載された事業の適正な進行を注視するとともに必要に応じて意見を述べるなど、中心市街地の総合的かつ一体的な推進と目標達成に向け関係機関とさらなる協力関係を構築していくこととする。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

本市では、市民が毎日の生活や仕事に安心感を持てる市政を目指し、重要な施策を積極的に推進していくために市民の声アンケートを実施している。

また、これまでの市民参加の手法では汲み取ることのできなかった「声なき声」を聴き、市民の声を市政に反映させるための市民討議会を行っている。

これら分析の結果は下記に示すとおりで、今後は、市民の声アンケートや市民討議会の結果を如何に中心市街地活性化へ繋げていくかが課題となっている。

○第 17 回市民の声アンケート

調査日：平成 24 年 10 月 2 日から 10 月 15 日

調査方法：満 20 歳以上の市民 6,000 人を無作為抽出し調査用紙を郵送

有効サンプル数：2,756 件

○市民討議会

実施日：平成 24 年 9 月 8 日・9 日

参加方法：満 18 歳以上の市民 1,300 人を無作為抽出し案内を発送

参加者数：延べ 62 人

市民の声アンケートでは、「高崎駅周辺の中心商店街ににぎわいがある」とした市民の割合は 44.2%で、平成 20 年調査（45.5%）、平成 22 年調査（41.6%）と比較しても満足度が高い状態となっている。

しかし、「出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されている」とした割合が 21.9%（平成 20 年調査 25.2%、平成 22 年調査 24.4%）、「歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる」とした割合が 22.0%（平成 20 年調査 30.1%、平成 22 年調査 30.5%）と、満足度が決して高いと言えないことから、個々の事業効果が中心市街地全体の活性化に表れているとは言えない。

一方、市民参加と協働のまちづくりを進めるため取り組んだ市民討議会では、市民目線による活性化に向けた気運の醸成が図られたとともに積極的な議論が交わされ、中心市街地の活性化に大きな関心があることが伺えた。

6. 今後の取組

本市の中心市街地は、商都高崎の顔であるとともに群馬県の玄関口として県下最大の集客力を誇っており、中山道の宿場町として発展してきた商人の歴史と群馬交響楽団の本拠地としての賑わいと交流、文化を中心とした魅力ある都心を形成することとしている。

現在は、「高崎文化芸術センター」や「新体育館」、「群馬県コンベンション施設」の計画が進行中であるとともに、商業の核となる「イオンモール高崎駅前（仮称）」の整備も本格化してくる。

本市では、第 1 期基本計画から継続した中心市街地の活性化を図るため、「第 2 期中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成 26 年 3 月 28 日に内閣総理大臣の認定を受けたところであるが、第 2 期基本計画では、第 1 期基本計画の効果と課題を十分に踏まえた次のステージへのステップアップとして、前述した 3 つの集客施設と新たな商業施設が融合し、集客効果が中心市街地全体に拡がる魅力的なまちづくりを行っていく。

さらに、高崎商都博覧会や高崎バル、まちなかオープンカフェ（高カフェ）やまちなかコミュニティサイクル（高チャリ）、新たに官民が連携した中心市街地の回遊を創出する環境整備を展開することとする。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち	小売業年間商品販売額	970 億円 (H19)	1,200 億円 (H25)	1,190 億円	(H25.11)	<u>b</u>
市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち	歩行者・自転車通行量(休日)	22,400 人 (H18)	27,500 人 (H25)	20,135 人	(H25.10)	C
音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	各種文化施設の利用者数の合計値	663,800 人 (H19)	704,300 人 (H25)	606,685 人	(H26.4)	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

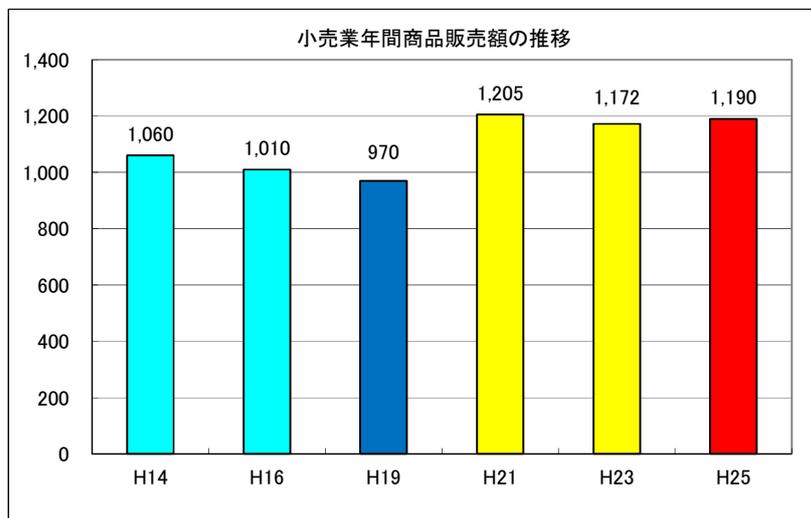
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「高崎都市圏の地域活性化を牽引する経済活力に満ちたまち」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P63～P66 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位: 億円)
H19	970 (基準年値)
H20	—
H21	1,205
H22	—
H23	1,172
H24	—
H25	1,190 (目標 1,200)

- ※調査方法: トレンド推計、大型小売店の立地効果推計 (日経MJ 第 39 回日本の専門店調査)、大型店聞き取り調査
- ※調査月: 平成 23 年 11 月時点調査, 平成 25 年は推計値
- ※調査主体: 高崎市
- ※調査対象: 中心市街地内の小売業店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①高崎駅東口第八地区優良建築物等整備事業（株式会社東口パーク 800）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成 22 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	高崎駅東口から北へ延びるペDESTリアンデッキで連結した、ホテル、テナント用の商業床を持つ複合施設の整備（1 階：店舗、2～11 階：ホテル）
目標値・最新値	（目標値）8.5 億円 （最新値） —
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業は計画どおり進捗したものの小売りを予定としていたテナントの構成が変更となったため。
計画終了後の状況（事業効果）	テナント構成の変更により直接的な小売りへの影響は得られなかったが、事業が予定どおり完了するとともに立地の良さなどから、ホテルや入居テナントの利用者が順調に推移しており、中心市街地への集客を図ることができた。
高崎駅東口第八地区優良建築物等整備事業の今後について	実施済み

②高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業（事業施行者）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成 20 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 25 年度【未】
事業概要	高崎駅西口駅前広場に面する重要な位置にある平面駐車場に、「商都・高崎」の顔にふさわしい魅力的な商業ビルの建設
目標値・最新値	（目標値） — （最新値） —
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	隣接する既存大型店舗と当該施設予定地の総合的な利用計画（イオンモール高崎駅前（仮称）の整備）に変更されたことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	隣接する既存大型店舗と当該施設予定地の総合的な利用計画（イオンモール高崎駅前（仮称））が進行中である。
高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業の今後について	隣接する既存大型店舗と当該施設予定地の総合的な利用計画（イオンモール高崎駅前（仮称））が進行中である。

③スズラン新館増床事業（株式会社スズラン）

支援措置名及び支援期間	高崎市中心市街地活性化対策資金融資事業 平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 22 年度【未】
事業概要	スズラン百貨店の新館増床、駐車場、イベント広場整備
目標値・最新値	（目標値）30 億円 （最新値）－
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の賑わいを創出するためリーディングプロジェクトに位置付けられ、事業計画の内容の検討を継続して行ってきたが、景気低迷の影響など、計画策定時からの想定外の要因により事業着手に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	－
スズラン新館増床事業の今後について	当該事業は未実施のまま終了となるが、賑わいの創出に向けた検討は継続して行っていく。

④高崎駅舎改修整備事業（高崎市、JR 東日本株式会社）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成 21 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	駅東口ペDESTリアンデッキと東口駅舎を連結整備することを契機として、東口駅舎を 2 階建てから 3 階建てに改修するとともに、集客施設として商業床の増床（イーサイト高崎）
目標値・最新値	（目標値）－ （最新値）7.7 億円
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	高崎駅周辺の開発は、駅中央コンコースの整備を契機として、東口駅前広場やヤマダ電機（LABI1 高崎）、ペDESTリアンデッキの整備で駅東西の分断要素が解消され大幅に利用者の利便性が向上した。さらに、駅舎改修事業による商業床の増床が予定どおり終了したことで新たな商業の拠点を作り出され、高崎駅一帯の相乗効果を生み出すことができた。
計画終了後の状況（事業効果）	交通の結節点である高崎駅東口駅舎に集客の核となる商業施設が整備されたことで中心市街地への集客及び小売業年間販売額の増加に寄与している。 また、イーサイトの店舗などの更新も行われており、新たな顧客の創出も行っている。

高崎駅舎改修整 備事業の今後に ついて	実施済み
---------------------------	------

3. 今後について

目標達成に向けたリーディングプロジェクトであったスズラン新館増床事業が景気の低迷等の影響から未実施となり、高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業の利用計画が変更になるなど、当初見込んでいた小売業年間商品販売額への効果が得られなかった。

一方で、ヤマダ電機（LABI1 高崎）の立地や高崎駅舎改修整備事業により、小売業年間商品販売額が増加となり、目標値をやや下回るどころまでカバーすることができた。

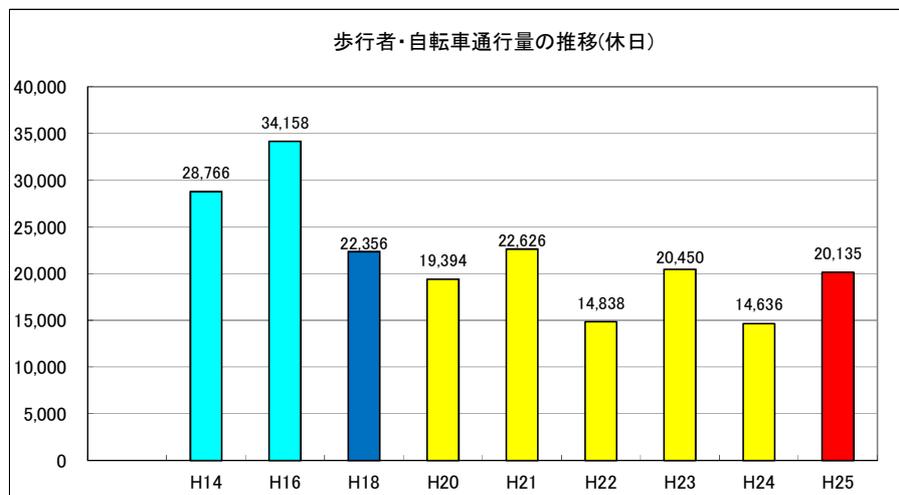
結果として、高崎駅周辺のイーストコアゾーンの強化は図ることができたが、中心市街地西側のウェストコアゾーンの強化を引き続き図るとともに、今後計画されている「高崎文化芸術センター」、「新体育館」、「群馬県コンベンション施設」、「イオンモール高崎駅前（仮称）」などと各種文化事業、商業イベントの取り組みを連携させ、中心市街地の回遊性と賑わいの創出を展開する。

個別目標

目標「市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち」

「歩行者・自転車通行量（休日の合計）」※目標設定の考え方基本計画 P67～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	22,350 (基準年値)
H20	19,394
H21	22,626
H22	14,838
H23	20,450
H24	14,636
H25	20,135 (目標 27,500)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：各年度 10 月実施

※調査主体：高崎市

※調査対象：休日の 6 地点 歩行者・自転車（10 時～18 時）の通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①スズラン新館増床事業（株式会社スズラン）

支援措置名及び 支援期間	高崎市中心市街地活性化対策資金融資事業 平成 22 年度
事業開始・完了 時期	平成 22 年度【未】
事業概要	スズラン百貨店の新館増床、駐車場、イベント広場整備
目標値・最新値	(目標値) 1,600 人 (最新値) —
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	中心市街地の賑わいを創出するためリーディングプロジェクトに位置付けられ事業計画の内容の検討を継続して行ってきたが、景気低迷の影響など、計画策定時からの想定外の要因により事業着手に至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	—
スズラン新館増 床事業の今後に ついて	当該事業は未実施のまま終了となるが、賑わいの創出に向けた検討は継続して行っていく。

②新図書館建設事業（高松町地区）（高崎市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） 平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了 時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	市内図書館サービス網の中心である拠点図書館として医療保健センター（仮称）と一体的に整備する事業。
目標値・最新値	（目標値）487 人 （最新値）339 人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	中央図書館が中心市街地に移転したことで利用者は増加の傾向にある。同時に整備された駐車場や市内循環バスぐるりん都心循環線の運行により来館の利便性が向上したことに利用者の目的行動が連動しなかったことなどが要因となり回遊性の向上に繋がらなかった。しかしながら、中央図書館の建設により新たな集客を図ることができたため、目標の約 7 割は達成した。
計画終了後の状 況（事業効果）	中央図書館は中心市街地という立地の良さを背景に移転前に比べ利用者が増加している。第 1 期基本計画期間中に導入したまちなかコミュニティサイクル（高チャリ）の駐輪ポートが設置されたことで、容易に来館することができるようになり、新たな回遊性の向上が期待されている。
新図書館建設事 業（高松町地区） の今後について	計画的に中心市街地に移転した中央図書館は、移転前に比べ利用者が増加していることから、中心市街地の回遊性と結びつける事業間の連携が必要である。

3.今後について

目標達成に向けたリーディングプロジェクトであったスズラン新館増床事業が景気の低迷等の影響から未実施となり、当初見込んでいた増加分の効果が得られなかった。

また、医療保健センター（仮称）建設事業や新図書館建設事業など集客の核となる施設の整備により、中心市街地への集客効果はみられたものの、中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加には寄与できなかった。これは、中心市街地の回遊性の向上を目的としたぐるりん都心循環線の乗降客数や新図書館の利用者数が伸びている中、この効果と利用者の目的行動が連動せず、波及効果が得られなかったため、想定よりも伸び悩む結果になったと推測される。

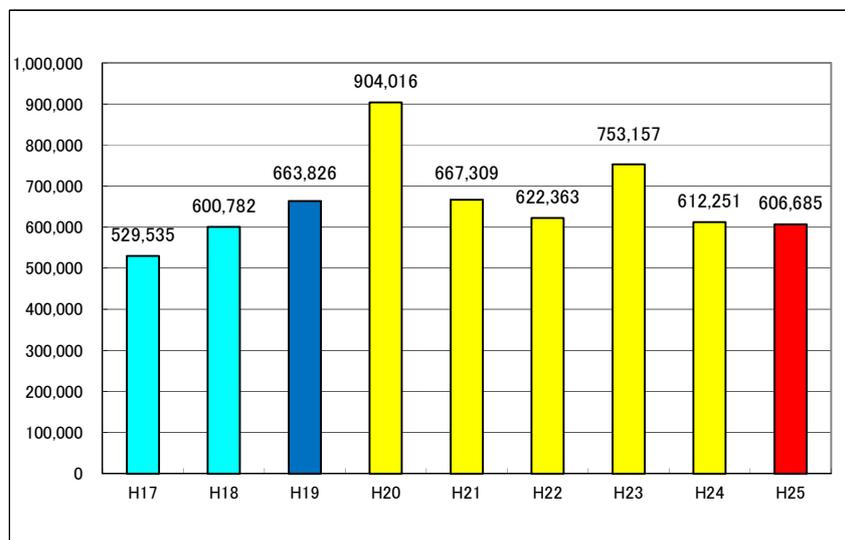
そのため、平成 25 年度に新たな事業として、まちなかコミュニティサイクル（高チャリ）を導入したところで、今後、高チャリのサイクルポートとぐるりんの停留所を連携させ、回遊性の向上を図ることで点を線に導くとともに、各種文化事業と商業サイドの取り組みを連携させることで、中心市街地の回遊と賑わいの向上に取り組んでいく。

個別目標

目標「音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち」

「各種文化施設の利用者数の合計」※目標設定の考え方基本計画 P72～P74 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H19	663,826 (基準年値)
H20	902,016
H21	667,309
H22	622,363
H23	753,157
H24	612,251
H25	606,685 (目標 704,300)

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査月：各年度実績

※調査主体：高崎市，各種文化施設

※調査対象：群馬音楽センター，高崎シティギャラリー，高崎市美術館，高崎市タワー美術館

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①高崎春まつり（実行委員会）

支援措置名及び 支援期間	— 平成 20 年度～
事業開始・完了 時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	桜開花時期の土日に桜の名所である高崎公園や城址地区にて、また観音山の桜の開花時期に観音山にて開催。様々なイベントを実施することにより、観光客と来訪者を惹きつける。
目標値・最新値	(目標値) 663,800 人の維持 (最新値) 606,685 人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	第 1 期基本計画で賑わいと集客を目的に新たな試みとして実施された事業であり、中心市街地内への集客を図ることはできたが、各種文化施設の利用を促す周知などイベント間の連携が課題となった。
計画終了後の状 況（事業効果）	当該事業は、春の桜開花時に開催されるイベントとして定着しており、中心市街地への集客に効果が表れている。親子コンサートの開催や中心市街地の各所で音楽ライブを行うなど、身近に音楽文化を感じる気運の情勢に効果を発揮している。

高崎春まつりの今後について	本計画を契機に新規に取り組みられた事業で、中心市街地の集客効果は得ていることから、引き続き第2期期本計画でも継続して取り組んでいく。
---------------	--

②まちなか魅力発信事業（高崎市）

支援措置名及び支援期間	— 平成20年度～
事業開始・完了時期	平成20年度～【済】
事業概要	中心市街地に居住する人をターゲットに、生鮮食料品を取り扱う店の紹介やまちなかの名物商人や名店などの情報を発信するとともに、各種文化施設の情報も発信する。
目標値・最新値	（目標値）663,800人の維持 （最新値）606,685人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	本事業は情報を入手するツールのひとつとして一定の効果はあったものの、平成22年度で事業が終了したことから事業効果の発現に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了
まちなか魅力発信事業の今後について	実施済み

③ミュージック高崎ジャパン（実行委員会）

支援措置名及び支援期間	— 平成20年度～
事業開始・完了時期	平成20年度～【済】
事業概要	群馬音楽センター、高崎シティギャラリーなどを会場に、吹奏楽やクラシックのコンサート、ストリートライブ、演奏に関する公開講座、体験教室、展示会などを実施している。
目標値・最新値	（目標値）13,300人（各種文化施設の利用者の基準年値の2%増） （最新値）※基準年値の維持に至っていない
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	本事業は、各種文化施設への利用者数増に貢献していたが、平成23年度に事業が終了したことから効果の発現に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了

ミュージック高崎ジャパンの今後について	実施済み
---------------------	------

④新図書館建設事業（高松町地区）（高崎市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） 平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	市内図書館サービス網の中心である拠点図書館として医療保健センター（仮称）と一体的に整備する事業。
目標値・最新値	（目標値）30,000 人 （最新値）※基準年値の維持に至っていない
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	中央図書館が中心市街地に移転したことで利用者は増加の傾向にあり、文化施設の利用者数に一定の成果を上げた一方で近隣施設での催事開催が複数行われたことによる影響があったと推測できる。 また、中央図書館利用者が回遊性の向上に反映されなかったことも効果の限定を招いたと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	新図書館は中心市街地という立地の良さを背景に移転前に比べ利用者が増加しており一定の効果が得られていることから、利用者を各種文化施設に取り込む施策を検討する必要がある。
新図書館建設事業（高松町地区）の今後について	計画的に中心市街地に移転した新図書館は、移転前に比べ利用者が増加していることから、引き続き各種文化施設の利用者増に取り組んでいく。

3. 今後について

目標達成に向けた 4 つの主要事業は、中心市街地への集客には大きく寄与しているものの、各種文化施設の利用者数増に結びつかない結果となった。

第 1 期基本計画期間の中間年度である平成 23 年度実績では、各種文化施設の利用者数は順調に推移しており、数値目標を達成した状況となっていた。これは高崎シティギャラリーの古代エジプト「神秘のミイラ展」などをはじめ、各施設で大型企画展を開催したことによる効果と、平成 23 年 4 月にオープンした新図書館の利用者の相乗効果によるものであった。

しかしながら、その後の各種文化施設の利用者推移は下がっており、その要因は、大型の企画展や企画内容により大きく影響を受けることであると分析する。今後は、企画の実行とともに集客力の向上に努めていくことが課題として挙げられる。

一方、中心市街地では自発的な民間主体のイベントが新たに見られ、既存施設におけるイベントに留まらず、中心市街地内をフィールドにした「音楽のある街・高崎」を盛り上げる取り組みとなった。今後は、市民の新たな動きを含めた各種文化事業と、商業イベントの取り組み

を連携させることで、中心市街地の回遊性と賑わいの向上に取り組んでいく。